

## 第六十一回「大会」のお知らせ

日 時 二〇二二年五月二十八日(土)  
十四時～十五時

会 場

WEB会議システムZoomを使用したオンラインで行います。

大会概要

- ・会長挨拶
- ・二〇二一年度事業報告及び各部報告
- ・二〇二一年度会計報告・監事報告
- ・役員改選・承認
- ・二〇二二年度事業計画・予算審議
- ・その他

申し込み

同封のハガキ、またはハガキに記載されているQRコードからインターネットで、五月十五日(日)までにお申し込みください。いただきましたメールアドレス宛にZoomに参加するためのURLをお送りしますので、「どこからでも」ご参加いただけます。この機会にぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。



— 第80号 —

〒112-8681  
東京都文京区目白台2-8-1  
日本女子大学教育学科の会  
電話 03 (5981) 7500  
ホームページ  
<http://jwu-gakuen.net/>  
メールアドレス  
[info@jwu-gakuen.net](mailto:info@jwu-gakuen.net)

## 「教育学科の会第61回大会」のご案内

会長 井上 信子

今年も会員の皆様へ、多くの方がご出席いただけますようお願いを込めて、お声がけをいたします。大会は、引き続き、新型コロナウイルスへの警戒を緩めない方針のため、Zoomによる「総会」となります。オンラインの強みを活かし、ご遠方もどうぞお誘いあわせの上、多数ご参加ください。

なお、「学縁の集い」につきましては、同日の開催に向けて、現在、調整中でございます。

目白キャンパスに移転しまして、心機一転となりました。学生たちは、日々生き生きと勉学に励み、交流を深めております。学生委員もまた熱心に活動しております。引き続き、教育学科の会へのご理解とご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※「学縁の集い」につきましては、P6もあわせてご覧ください。

### 提言

## 「わからない」と感じるものの価値

教育学科教授 瀬尾 美紀子

わかりやすい授業、わかりやすい話、わかりやすい文章、など、「わかりやすい」ことの価値は一般に広く認められています。関連して「すぐわかる」ことも重視されている印象を持っています。典型例が、学校でよく見かける以下のやり取りです。先生：「ここまでの説明についてわかりましたか？」子どもたち：「わかりました！」。すぐわかることの価値はもちろんあるわけですが、それを求めすぎるあまり、わからないと感じたり、わからないと言ったりすることはダメだというふうになっ

てしまわないか、少々心配しています。  
教育認知心理学では、「わかる」つまり「理解」するとは、ものごととものごとの相違を考えて説明できたり、これまでの自分の知識（経験も含めます）と新しく入ってきた情報をつなぎ合わせて考えることができる状態を指します。反対に、そうした思考処理がうまく進まないときに、私たちはわからないと感じるのだと言えます。つまり、「わからない」というのは、上で述べた一連の思考を働かせるとともに、そのことを自覚的に認識するメタ認知も働かせているわけです。わかることと同様に、わからないと感じることに同等の価値があると考えてよいのではないのでしょうか。

小学校算数科の授業で、「どうして小数点を動かさなきゃいけないんだろう：わからないなあ」とつぶやきながら、小数と小数の割り算に取り組んでいる子どもを見かけたことがあります。正しい答えは出せていたことから、計算の手順はこなせていた一方で、小数点を移動して答えが出せる理由がわかっていなかったのではないかと思われます。この子どもの「わからない」からは、「なぜ小数と小数の割り算は、小数点を移動して計算することで答えを出すことができるのか？」といった算数・数学の本質的な問いを立てることができません。大学の授業でこのエピソードを紹介すると、この子どもにとっても共感する学生もいれば、「今まで小数点を移動する理由なんて考えたことはなかった。この授業で初めて考えた。」と正直に話してくれる学生もいます。「わからない」と感じることは、今の段階の理解を、もう一段階深めるために必要であることがわかります。

学習者が「わからない」と感じたことはダメなことではなく、自分なりに考えて理解しようとした成果であることに目を向けるよう促し、理解を深める道筋を示して励まし、「わからない」に向き合うための思考作業を支えることが、教育の役割として重要ではないかと考えています。

## 学生委員会より

### 学生委員活動報告及び

### 教育学科学生の「今」について

#### 1 はじめに

今年度教育学科の会・学生委員長を務めております、教育学科3年の林奈美と申します。5月末に新体制で活動し始めてから、オンラインでの取り組みを中心にこれまで歩んできました。しかし、2021年度の「学縁のつどい」は学生委員会担当の先生方や私たち委員で議論を進めたところ、中止という決断に至りました。重大イベントが中止になりました。卒業生の皆さまとの関わりが希薄となってしまいました。この記事を通して卒業生の皆さまにも教育学科の学生の活躍を感じていただけたらと存じます。

#### 2 学生委員会での主な活動

学生委員会では12月末までの期間で、2年生に向けた「ゼミアピールポイント集」作成や12月11日(土)

実施・片桐先生第3回講座「成瀬仁蔵の宗教観」参加貢献に取り組みでまいりました。これらの活動では、

自分がこれまでの大学生活でなかなか得られなかった「達成感」や「日本女子大学の学生である誇り」を得できました。

#### ● 2年生に向けた「ゼミアピールポイント集」作成

この活動に至るまでの契機ですが、学縁のつどいの今年度の開催が中止になり、この行事に代わる取り組みを検討する際に、気軽に閲覧できるようにオンデマンドやコンテンツを通して下級生との関わりができたらの思いで始めたことからです。忙しくても身近に見られるように私たち先輩側から情報提供する内容が、この2年生に向けた「ゼミアピールポイント集」編纂です。また、

ゼミアピールポイントにこだわった理由としては、コロナ禍で他学年どうしの交流が希薄となってしまったことから、2年生の中でゼミ選びのアドバイスを気軽に先輩に聞けない状態になってしまうと予想されたためです。

この「ゼミアピールポイント集」ですが、10月上旬から11月上旬にかけて3年学生委員会を中心にGoogleフォームを利用し各ゼミ複数名からメッセージを集め、一つのリーフレットにして2年生の皆さんにお渡ししました。3・4年合わせておよそ30通ものメッセージをいただき、どのゼミのアピールポイントもそれぞれゼミのカラーが出ており、個性あふれるものとなりました。ご協力してくださった学生の皆さんは教育実習や就職活動などで多忙なところ、後輩のために温かいメッセージを記入してくださったのでとても心強い存在です。

ゼミ選択期間が終了した12月中旬頃、「ゼミアピールポイント集」を手にとってくださった2年生から、「コロナ禍で先輩との関わりが少ない中こうやって先輩方がゼミの魅力

を語ってくれていたのが嬉しい」、「二つ一つのゼミならではの魅力が詰まっており、また所属する先輩方のリアルな声を聞くことができ、とても参考になった」とのご感想をいただきました。初めての試みであったので、3・4年生の間でどれくらいのメッセージが届くのか不安感が募りましたが、結果として予想を上回るたくさんのメッセージをいただくことで、2年生の皆さんにもこのような感想を持てたのではと安心や達成感を抱くことができました。このようにオンデマンドでも他学年どうしでの繋がりを持つことができ、コロナ禍でも実現可能な取り組みがあるということを再確認できました。

#### ● 12月11日(土) 実施・片桐先生第3回講座「成瀬仁蔵の宗教観」(教育学科の会・生涯学習センター共 同主催)への参加関与

学生委員会では、コロナ禍でなければ教育学科の関係者をお招きし、ホームカミングデーの関与が実現可能でしたが、昨年度のホームカミングデーが中止であったこともあり、

今年度もホームカミングデーの実現は困難となってしまいました。しかし、先生方から「片桐先生をお招きすることこそがホームカミングデーなのではないか」とのご意見をいただき、私たち学生も片桐先生の懇話会に向けて夏季休業中を利用し、参加者の確保に努めました。

懇話会当日には学生委員だけでなく、お忙しい中教育学科の学生も複数名集まってくださり、オンライン開催でしたが教育学科の学生どうしの授業以外で学べる場となって貴重な機会となりました。これまで教養特別講義などで成瀬先生の生い立ちや日本女子大学設立への想いは学んできましたが、宗教観までは詳しく学んでこなかったので、今回の懇話会で成瀬先生が宗教にどのような視点を持っていたのかを知ることができました。また、日本女子大学に通っているながらも初めて知ったことが幾らかあったので、本学学生に共有してみたい思いが膨らんでおります。

### 3 教育学科の学生の「今」

教育学科の3年生は私を含め半数以上の学生が12月下旬の時点で3

週間ほどの小学校の教育実習を終えた一方、小学校免許を取得しない学生は就職活動に熱心に取り組んでいる方や公務員の勉強に励む方もいます。私は、友人との会話でも将来の進路の話題が多く、インターンシップの体験話を聞いたり就職活動に力を入れている友人に対してエントリーシートへの参考になるように他己分析を行ってみたいしてきました。私は現時点では小学校の教員採用試験を受験予定ですが、さまざまな学生の「今」を知ること互いに刺激しあっていることで、そこでモチベーションを保っています。

先ほど申し上げた教員採用試験や就職活動のほかにも、わたしたち学生はゼミでの活動も幅広いところもあり、卒業論文の作成だけでなく、とあるゼミは先生とゼミ生同士の交流も盛んな様子も見られ、それぞれのゼミの良さや個性がにじみ出て興味深いです。

1年生は、さっそく将来の進路に向けて考え始めている学生も少なくない印象にあり、キャリア支援課主催のガイダンスにて教育学科の1年生の方が複数名いらっしまったこと

もあり、熱心な後輩がいてとても刺激をいただいております。

2年生とは、これまでゼミ関係や取得中の免許の話題が多く、最近では所属ゼミの発表が行われたとの話もありました。私としてはゼミ活動で来年度に彼女たちが加入する期待も膨らんでいると同時に、先の見えない世の中ですが、これまでよりも豊かに交流が出来たらという思いがあります。

4年生や先輩方とは、これまで授業で何度かお話しする機会もあり、自分の進路や卒業論文作成への不安を和らげてくださる温かい存在です。今度は私が先輩方のように温かく後輩にアドバイスできる存在になれるように、先輩たちのためにプラスになる働きかけができればと思います。

### 4 おわりに

この場をお借りし、学生委員の活動報告及び教育学科の学生の「今」をお届けいたしました。今年度もオンラインでの活動が中心であり、対面での活動がなかなか行われないうちで不安も数多くありました。しかし、活動を経ていく中で目標

達成の喜びも生まれ、学生の皆さんや教育学科の先生方、そして教育学科の会の皆さまが協力してくださるおかげで活動のやりがいを感じております。いつも私たちの活動を支援してくださっている皆さまに深く感謝申し上げます。

オミクロン株の出現により、完全な新型コロナウイルスの収束はほど遠い世の中ですが、皆さまの健康を心よりお祈り申し上げます。私たち学生も健康第一に努め、学業に励んでいく所存です。

今後とも、私たち学生委員会の活動を見守っていただけたら幸いです。

【文責：学生委員 3年 林奈美】



## 懇話会の報告

『成瀬仁蔵に学ぶ 第3回 宗教観  
〜キリスト教と帰一思想をめぐって〜』

日本女子大学名誉教授 片桐芳雄先生

**概要** 今回の懇話会は、日本女子大学の創立120周年特別企画講座として生涯学習センターとの共催にて実施致しました。片桐芳雄先生による全3回の連続講座第3回を教育学科の会の懇話会として成瀬仁蔵の思想を学びました。(10月9日に第1回「女性観〜女性の領域(Women's Sphere)」をめぐって」11月13日に第2回「教育観〜デュイイとの関係をめぐって」が開催されました)

## 1 キリスト教との出会い

成瀬仁蔵は、7歳4か月の時に母を失い、「厭世の観念」が生れ、宗教心が芽生えた、と自ら語っています。その後、19歳のとき、故郷の先輩で、米国に留学してキリスト教徒となつた澤山保羅を訪ねてキリスト教の教えに触れ、「その晩は寝られぬほどに嬉しかった」というほど感激しました。成瀬は、澤山を追って大阪に出て受洗し、澤山と、キリスト教にもとづく梅花女学校を創設しました。しかし、学校経営の経済的困難の中で、キリスト教徒以外の人からの寄付を受けることに反対して教員を辞職し、大和郡山教会の牧師となり、布教活動に専心しました。このような、熱心な活動が認められ、成瀬仁蔵は、牧師として新潟に派遣されることになりました。

## 2 新潟時代(1886年〜1890年)

新潟のキリスト教界は、組合教会系と一致教会系が、協力しつつ

反発するという、複雑な事情を抱えていました。この問題を解決する使命を受けて新潟に派遣された成瀬は、この困難の中で、素朴にキリスト教を信仰するよりも、これを「研究」する必要を感じるようになります。内村鑑三と全面的に対決した、いわゆる北越学館事件もこの想いを後押ししました。成瀬は、牧師を辞任し、キリスト教研究をするために、米国に留学する道を選びました。

## 3 アンドーヴァー神学校・タッカーとの出会い

成瀬仁蔵はアンドーヴァー神学校で神学教授タッカーに師事しました。タッカーは、社会問題にも強い関心を持ち、教会が社会的責務を果たすことの重要性を主張しました。このようなタッカーのキリスト教観は、進化論を含む近代科学を受け入れ、聖書はあがめるものではなく研究の対象とし、エキメズムという教派を越えた立場をとり、更にはイエス・キリストを人間として承認するも、宗教的、霊的な世界を肯定し、人間的な実践を重要視するといった考え方でした。このキリスト教観は、成瀬に深い影響を及ぼしました。

## 4 「新しい宗教」の探求―帰一協会の結成へ

日本女子大学校を創設した成瀬仁蔵は、学生たちに、「従来の宗教」を批判し、「世界的宗教」の建設を説くようになります。仏教、マホメット教、孔子や、ソクラテスなどのギリシャ哲学にも宗教的な意義を見出し、それぞれのエッセンスを融合した世界的宗教の建設ができるのではないかと考えました。同時に、人は、自己と宇宙とを一体化したいわば「私の宗教」を得ることができないのではないか。こうして成瀬は、宗教の本質的なものは同一であると考へ、洪沢栄一や姉崎正治らとともに「帰一協会」を結成しました。ちなみに、卍と十字架を組み合わせた日本女子大学の校章の起源はこの思想を背景としています。

## 5 帰一思想の展開〜「世界的宗教」の後退と「私の宗教」の深化

帰一協会を結成した成瀬は、その世界的理解を得るために欧米に巡遊の旅へ出ました。しかし、帰国後の成瀬は「世界的宗教」については語らなくなり、むしろ「デモクラシーの根本精神」を語るようになり「す。「世界的宗教」の建設といったことが、どだい無理であることを認

## 片桐芳雄先生のご経歴

1944年生まれ。東京大学教育学部教育学科教育史・教育哲学コース卒業。同大学院教育学研究科を経て1975年愛知教育大学講師。以後、助教授、教授。2000年日本女子大学人間社会学部教育学科教授。2007年から2011年まで人間社会学部部長。2012年3月定年退職。愛知教育大学名誉教授。日本女子大学名誉教授。専門・教育史。教育学博士(東京大学、1989年)

識したためでもあります。第一世界大戦を前にして、欧米でデモクラシーの潮流が盛り上がっていることに、大いなる刺激を受けたのです。

他方、「私の宗教」は、エマソンを学び、タゴールとの出会いによって、より深い宗教的な境地に到達しました。人そのものに神性仏性がある限り、人は誰でも、「瞑想」によって「至上人格 (Supreme Person)」を媒介として「偉大なる者」と帰一 (一体化) できる、というのです。

### 6 デューイの宗教観との共通性

以上のような成瀬仁蔵の宗教観は、デューイの宗教観とも通じるものがあります。人は、目には見えない力によって支配されており、それぞれ理想を実現する力となる、という考えです。

### 懇話会概況

2021年度の懇話会はZoomで実施した事もあり、多くの方にご参加頂きました。卒業生とその関係者で95名、在校生からも34名の申し込みを頂く事ができました。ご参加頂きました皆さま、そしてご講話頂きました片桐芳雄先生、どうもありがとうございます。学校の内外の境なくこうした学びの場を得る事はとても貴重です。今後も教

育学科の会のご支援を宜しくお願い致します。

【文化部 部長 中込知野】

### 参加者の感想



●成瀬先生の思想家、宗教家としてのお考えをまだまだ僅かですが知ることができました。当時はよく理解できていませんでしたが、大学に入学した時に、校章について「キリスト教の十字架、仏教の卍を含みそれを越えたものの意味を表すもの」というようなお話があったのを覚えています。成瀬先生は臨終のとき、死後どこに行くと思っておられたのかと考えました。「天国の絶対的な存在 (神、仏のようであり、更にそれを包括した方) のもとに行く」とお考えだったのでないでしょうか。仏教の「慈悲」、キリスト教の「愛」、儒教の「仁」・・成瀬先生は人間としての生き方を教え導き人間を平和に導く絶対的存在、真理の支配者の存在を信仰するというお考えなのではないかと感じました。

(25回生 萩野厚美)

●地方に住んでいるとなかなか女子大の懇話会に行きませんが、久しぶ

りに学生気分に戻って、受講できました。これも、オンライン時代のありがたさです。成瀬学長が、宗教を一つにしたいと願って、帰一会という会を立ち上げたことを初めて知り

ましたが、当時人気だったであろうキリスト教だけにとらわれないその考えは立派だと思います。少ししか学んでいない私がいうのは僭越で恥ずかしいですが、学生時代、宗教や哲学心理学を学んで、人種、時代は違っても、人間のベースとなる考えはほぼ同じだと思いました。だから、宗教もほぼ同じ考えに基づいて、命や死について説いているのに、その宗教の違いが、歴史の中でずっと戦争を引き起こしている現実が悲しいです。世界の宗教を一つにすることは不可能と思いますが、世界宗教の観点から、成瀬学長がキリスト教のみに固執しなかったことは、仏教徒の私にとっては大学入学の際抵抗がなく、幸いでした。最近ますます宗教による民族問題が世界中で激しくなっています。成瀬学長のように、少し、ゆるく考えることが、本当は大事だと改めて思いました。

(26回生 HA)

●成瀬がキリスト教から離れて帰一思想という考えに至り、女子大を設立したこと、特定の宗教ではなく「宗

教の起源は一つ」という考えに至ったのは、敬虔なキリスト教徒であつた成瀬が信仰を深めたからに他ならないと思います。まだまだ学ぶべきことが多いと感じますが、ようやく成瀬の思想をもっと知りたいと思うようになりました。そのような機会を与えてくださった片桐先生に對し、感謝の想いでいっぱいです。

(26回生 大森桃子)

●現在幼児教育に携わっており日々伸びゆく子どもの喧騒に身を置いています。長時間保育の増加と職員員の労働環境、環境の変化に伴う保護者の意識、多様な子どもへの対応など運営面でも悩ましいことが続きます。私の日常と創設者成瀬仁蔵の宗教観が一体どのようにかかわりを持つことになるのか半信半疑で参加いたしました。片桐先生が深い研究に裏打ちされ、説かれる人間像、宗教観は深く崇高で感銘いたしました。今回は、その片隅をのぞかせていただいたに過ぎませんが、幼児が自己内対話をはじめ、自我を広げて育っていくこととその先に続く人間としての成熟に深いかかわりがあることを感じました。また、改めて創設者の宗教観と日本女子大の調和のとれた校風の繋がりを知り、そこに在籍していたことを誇りに感じました。

また明日から自分と周りとのつながりを大切にしながら進んでいこうと思えました。片桐先生に心より御礼申し上げます。オンラインで気楽に参加できました。

(29回生 水越美果)

●おかげさまで大変興味深い講演を聞くことができ、喜んでおります。片桐芳雄先生の成瀬仁蔵に関する講演が来年も開かれるとのこと、楽しみにしております。

(西谷洋子)

●少し難しい内容でしたが、成瀬仁蔵の宗教観について詳しく知ることができました。質疑応答も活発だったのがとても印象的でした。

(教育学科1年)

●自分の知識不足もあり、講座内容が難しく感じました。

(教育学科1年)

●成瀬仁蔵について学ぶ機会がなかったため、このような貴重な機会を設けていただき、大変勉強になりました。

(教育学科3年)

●成瀬先生がどのような思いで日本女子大学を設立したのかということ、成瀬先生の生い立ちや宗教観を交えながら学ぶことができ、日本女子大学への理解が深まった。

(教育学科3年)

●今回の片桐講座では、成瀬先生の宗教観を学ぶことができ、大変勉強

強になりました。印象に残ったのは、日本女子大学の校章の由来です。もっと成瀬先生のことを学びたいと思えるそんなきっかけを作る授業でした。

(教育学科3年)

●教養特別講義の授業でこれまで成瀬先生の人生観について触れられる機会はありましたが、この片桐先生の講座を受講するまで成瀬先生の宗教観までは詳しく存じておりませんでした。特にすべての宗教のものはエジプトであるということは驚きを感じ、中学・高校で得た知識だと宗教のイメージはイスラエルのイメージがありましたので、宗教の起源も知ることができ、深い知識を得ることができました。

(教育学科3年)

●過去2回までのものよりも、わかりやすく親しみやすいものだったように感じました。色々な視点から大学を見つめなおすことができよかったです。来年度もよろしくお願ひいたします。

(教育学科3年)

●もう4年も通っている日本女子大学についてまだまだ知らない方が多いと気づかされました。

(教育学科4年)

●日本女子大学の校章についても話を伺うことができ、面白かったです。

(教育学科4年)

## 2022年度の学縁の集いについて

例年であれば、5月の「大会」に合わせて行っている「学縁の集い」は、コロナ禍のためにこの2年間実施できておりません。2022年度こそはオンライン形式で行うことを検討中です。総会と同日の開催ができるよう、現在、調整中です。詳細が決まり次第、教育学科の会のホームページ「新着情報・トピック」の欄に掲載しますので、どうぞお楽しみに！

教育学科の会のホームページのURLは、「<http://jwu-gakuen.net/>」、QRコードは下のとおりです。



会員の広場

ハガキ  
コーナー



見し、勇気づけられました。年々、大学時代をなつかしく感じておたよりも楽しく読んでおります。今号は清水先生のコロナ禍における学校の様子の考察に共感をおぼえ、良かったです。(14回生 東京都)

◆西生田に教育学科が移り、引越しの手伝いをしたのがついこの間のような気がします。また目白に、と思うと感慨深いものがあります。(21回生 高橋園子)

◆「葦」の第80号が届く頃にはコロナ禍が終息しておりますように。ひとけたの回生が少なくなり、さびしく思います。卒業から63年、沢山の恩恵をいただいた女子大に感謝しております。(8回生 東京都)

◆2021年8月よりようやく要支援2になりました。おかげさまで週2回訪問看護を受けています。コロナですっかり弱ってしまっただけと身体のメンテナンス治療をしています。3年前の日常が戻ってくると思います。(12回生 東京都)

◆女子大生活が遠い昔のこと、一応社会とのつながりを持って活動しておりますが、自分をはがゆい気持ちです。4年間の青春はとてども大事です。後輩の皆様、一日を大切に。もう一度あのころに戻りたいと常々思っています。(13回生 神奈川県)

◆4回生の方のお元気なお便りを拝

◆非常勤教員になり週4日の勤務になりました。休みを有意義に過ごしたいと思っておりますが、ついのんびりと過ごして終わってしまいます。どうしたものか・・・と悩む毎日です。(30回生 東京都)

◆おこもり生活も長くなりました。感染者人数も減ってきましたが、外出するのが怖くなってしまいました。回生委員会がZoom開催とのこと。忘れずにメール送信して、引越してから初めて参加してみようかと。こういうご時世だからこそメリットかなとも思います。(33回生 竹内さち子)

◆教員生活を38年間すごし、この春退職をしました。私の教員生活の礎となったのは、やはり日本女子大での4年間だったと改めて感謝しています。機会があったら目白台の新校舎にぜひ伺いたいと思っています。(33回生 森下時江)

◆月2回、外国ルーツの子ども達の教育支援ボランティアをしています。(33回生 東京都)

◆新目白キャンパスの紹介、新しい建物どれもガラス張り採光のよい明るい感じがすてきだなと思いました。かつて文学部教育学科時代に目白キャンパスで過ごした者としては、当時の友人

といっしょにいつの日か新キャンパスを訪れてお茶をしたりおしゃべりしたいです。(37回生 東京都)

◆卒業以来、幼稚園、児童館、保育園とフルタイムで働いています。我が子も成人し、ワーク趣味バランス？が充実してきました。葦をゆくり読む時間もできました。(37回生 吉岡恵)

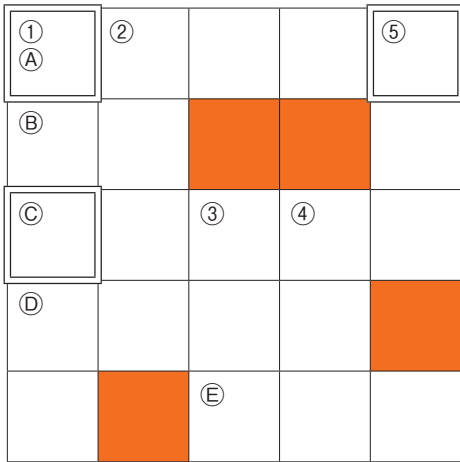
◆西生田キャンパスへの通学がなつかしいです。目白キャンパスになるなんて、びっくり！(50回生 千葉県)

◆「葦」が届くたび、大学をなつかしく思いながら読んでいます。卒業後も図書館を訪れてみたり、免許更新に通ったりしていましたが、コロナもあり、すっかり出かける機会も減ってしまいました。新キャンパスにも行ってみたいです。(57回生 埼玉県)

◆大学を卒業し、小学校教諭の道に進みました。育児を経て復帰し、子育てをしながらの教員生活の大変さを実感しています。それでも親になったからこそわかる保護者の想いを強みとし、日々、学級の子供たちとも過ごしています。教職の現場も、もっと女性が働きやすい環境になることを願っています。(院卒 静岡県)

### クロスワードパズル

二重枠の文字を組み合わせてできる3文字の言葉は？



答え

--	--	--

#### 【当選者】(敬称略・数字は回生)

- |            |            |            |             |            |
|------------|------------|------------|-------------|------------|
| 森 裕子 (16)  | 蓮井 加代 (18) | 山下 時子 (27) | 萩原 雅子 (32)  | 森下 時江 (33) |
| 清水 素子 (34) | 寺田 朋子 (44) | 馬場 みほ (57) | 土志田 真実 (66) | 仙田 真帆 (67) |

#### ヨコのかぎ

- ① 合格を通知する言葉。  
1950年代に早稲田大学の学生が始めた合否電報がはじまりとか。
- ② 〇〇半島は静岡県東部にあり、各地に温泉が湧くことで有名。
- ③ 恋愛ドラマや映画では欠かせない(?)役。
- ④ 絵具を混合する板。
- ⑤ ウクライナの首都。

#### タテのかぎ

- ① 映画『羊たちの沈黙』で描かれた。
- ② いろいろな呼び方がある。waste basket.
- ③ 演奏できると楽しい。
- ④ わかりやすくするために置き換えるもの。
- ⑤ 「その場の雰囲気」という意味もある。

#### <ヒント>

江戸時代の日本の政策

- ◆ 解答を同封のハガキインターネットからご応募ください。(5月15日締め切り) 正解者 10 名に図書カードを進呈します。(正解者多数の場合は抽選)
- ◆ 前回の正解は<えもじ>でした。たくさんのご応募ありがとうございました。



### 回生委員会からのお知らせ

コロナがなかなか終息しませんが、皆様お変わりないでしょうか。

1年以上開催できずにありました回生委員会ですが、2021年10月30日(土)に令和三年度第一回回生委員会を初めてZoom会議にて開催することができました。

Zoom会議ということで、初めて回生委員会に出席された方があったことを大変嬉しく思いました。

予定された各部活動計画等の議題のあと、自己紹介の時に「教育学科の会でこれからどんな活動をしたか」を話して頂きました。見学ツアー、勉強会、読書会等様々な貴重なご意見が出されました。その中で出された「コロナ禍での学生会員を会として支援できることはないか」というご意見について理事会でも話し合い、学生委員を通じて支援してほしい事を学生会員にアンケートをとって頂

くことになりました。また学生会員の就職突破に向けての講座の開催も検討が進められています。

次回(令和四年度第一回)回生委員会につきましては、日程が決まりましたらお知らせ致しますのでどうぞ宜しくお願い致します。

\* 回生委員を交代される方は新委員の〔氏名、回生、住所、電話番号、(できればメールアドレス)〕を同封のハガキ表面の(近況や教育学科の会へのご意見)欄にてお知らせください。尚、交代の連絡はインターネットではなく、ハガキにてお願い致します。

\* ご不明な点がありましたら、回生委員長・萩野までご連絡ください。

萩野(25回生) TEL・FAX 0467(83)4054

#### 編集後記

★ 隔離も厳しく、日本に帰れないままドイツで新年を迎えました。最後に受け持った小1の子達が今春卒業します。スペシャルな行事がなくなっても、毎日をスペシャルな笑顔で過ごしてくれていたらいいなと願いながら、飛行機雲を見上げています。

(佐野加奈子 59回生)

★ コロナ禍でいろんな配信が増え、電車が苦手な私にはとてもありがたいです。さて今回の葦、読み応えたっぷり！学生さんしっかりなさって誇らしいです。そして大好きなハガキコーナーも充実！返信ありがとうございます。

(星野ひろみ 37回生)

★ NHKの朝ドラのヒロインは私と同じ年。私としては「つい最近」と思っていた高校時代も、映像になつてみるとすいぶん古めかしくてびっくりです(笑)。きっといろいろなことがあったのでしょうか、覚えているのは楽しかったことばかり。今の学生さんたちが数十年後にふりかえったときにも今がそのような時間になりますように。

(石井美奈子 38回生  
会報編集部長)

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。